

・今回は参加のメンバーからGW企画で見えた課題について話したいと提案を頂きました。

企画の中で一人のメンバーが提案してくれた「納得いくまで質問する」について、質問する側、答える側の課題を大きく感じました。

質問のラリーが1往復で決まらない状況で、質問する側になった時に自分が芯に当てていない問いをしているし、答える側になった時に、質問の芯の部分を外した答えばかりしていて、相手の納得感が生まれぬまま、質問を重ねてしまいました。

これまでのコーチング練習会や他の勉強会では、数多くコーチング的な会話の基本やお互いに踏み込んだ質問をするための関係性作りをしてきましたが、その部分だけでは足りないということが、今回のアドバンスクラスで分かりました。

GW企画で私の提案した、インターネット上の人生相談への回答企画では、私が選んだ「過保護でしょうか」と親が問う質問についての回答が完全に芯を外していて、また皆がその芯に触れられない中で、陽子さんは、私が自分のしてきたことを認められるまで問いを投げ返してくれました。

テキストではかなりのラリーになったので、陽子さんにも疲労感を覚えさせるやり取りになってしまったと思いました(それに気付いたのもかなり後になってしまいました...)

私の野生ポストに書いていた内容について質問を頂いた際にも、これまでの前提を知っているからこそその質問に対して、私がその前提が抜けている回答をしたことで、質問してくれたメンバーの不満足感につながったと思っています。

陽子さんは常々「コミュニケーションの責任は半分ずつ」とおっしゃっていますが、どれだけ良い質問だったとしても回答者がその意図に気付いていなかったり、答える気持がなければ成立しないし、質問があまりにも外れていると、質問の意図を汲み取ってくれる回答者であっても、話の本質から外れてしまうのだと、今回、具体的な例で実感しました。

別のメンバーが途中で指摘された「クラスAとして特訓している割には適切な質問ややり取りができていない」という点に対しては、苦笑するしかないほど、本当にその通りと思いました。

この方は私に対してもですし、他のメンバーに対しても端的で的を得た質問をされていたのが見えていたので、それは日頃の特訓というよりもこの方の物の見え方なんだと思いました。

一方でこの方とのやり取りがぼやけたように感じてしまう時は、ゴミ屋敷の中で物を探しているような思考であることも、事例を出してもらったことでこれまでよりも伝わりました。

5分間コーチングはクライアントが野生ポストに対して受けた質問を深掘りしたいという意向で開催されました。

クライアントがお母さんと同じ選択をすることを良かったことだったとしても選びたくないこととして受け止めてしまうんじゃないかという不安に対して、このメンバーのコーチングは流れるように、子供に事例を見せていくことで意向を聞いていけばいいんじゃないかという自然な流れになっていたと思います。

陽子さんから別パターンの結局子供に押しつけゼロにはならないとしたらという展開の話を聞いたのも参考になりました。

自分がコーチをやっているときも、頭の中で複数の展開を思い浮かべながら発展出来るまでになれたらよいと思いました。

最後のセッションはクライアントが陽子さんを指名して行いました。

GW企画の中で、亡くなったことも含めて美化していたお父さんに対して、お母さんに対してはそうした気持ちが思い浮かばない理由について、クライアントから無意識のうちに出了「一度も美化したことがない」という言葉を陽子さんは拾いつつもひるまずに「馬鹿にしていない？」という問いにつなげていました。

シェアの時間で他のメンバーも言っていた通り、私もその言葉はかなり強い言葉と感じていましたが、その部分にちゃんと焦点を当てて質問が出来るようにならないといけないのだと思いました。

コーチングだけに留まらず、日頃の過ごし方までつながる課題を、陽子さんをはじめ、参加してくれたメンバーの皆さんに教えてもらったと感じています。

皆さんありがとうございました。

(A.S 40代女性 大阪府)